

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|--------------------------------|-----------------|-------------------------|
| 課題番号 | 23225005 | 研究期間 | 平成23年度～平成27年度 |
| 研究課題名 | 有機スピン三角格子を基盤とする 複合電子機能の開発研究 | 研究代表者 (所属・職) | 齋藤 軍治 (名城大学・農学部・ 教授) |

【平成26年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | 評価基準 | |
|----|-------------------------------------|---|
| A+ | 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる | |
| A | 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる | |
| ○ | A- | 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
| | B | 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |

(意見等)

本研究は、1)新規有機スピン三角格子系の開発 2)圧力印加による電子状態制御 3)電界・光・磁場によるキャリア注入と状態制御を柱とした電子機能開発研究である。1)では新規の有機三角格子スピン系を見だし、2)でそれらを含め超伝導特性を明らかにした。これらの主成果は注目すべき内容を含むが、現段階では、物質系の例を増やしただけで、何が本質的に新しいかを具体的に明らかにするのは今後の課題である。3)はまだ緒に就いた段階である。研究成果の論文発表・国際学会での公表及び普及活動は十分とは言えない。今後は、各研究者間の連携を深め、基盤研究（S）にふさわしい学術上の成果を上げることが大いに期待する。